

## 6. 不定詞

### 1.

次の日本語に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(1) その問題を解くなんて彼は頭がいい。

( to / the / is / problem / solve / . / he / smart )

(2) 彼はアフリカに行って、二度と戻らなかった。

( went / , / return / . / to / to / he / Africa /  
never ) [He went で始める]

(3) この本は読みやすい。

( easy / book / to / is / . / this / read )

[解答]

- (1) He is smart to solve the problem.
- (2) He went to Africa, never to return.
- (3) This book is easy to read.

## Note

### 6. 不定詞

#### 1. 副詞的用法

(1) その問題を解くなんて彼は頭がいい。

He is smart to solve the problem.

「頭がいい」

不定詞・副詞的用法  
「～するなんて」〈判断の理由〉

「問題」

不定詞の副詞用法には中学内容では述べていないものがあります。中学内容も含めてまとめると次のようになります。

[不定詞の副詞用法]

- ① 目的 「～するために」
- ② 結果 「～した結果…」
- ③ 感情の原因 「～して…」
- ④ 判断の根拠 「～するとは…」 「～するなんて…」
- ⑤ 形容詞を修飾 「～するのが…」 〈S is + 形容詞 + to do〉

- ① He went to the park to play tennis.  
(彼はテニスをするために公園へ行った。)
- ② She grew up to be a famous scholar.  
(彼女は大きくなって有名な学者になった。)
- ③ I was shocked to hear the news.  
(私はそのニュースを聞いてショックだった。)
- ④ She was really kind to help me with my homework.  
(私の宿題を手伝ってくれるとは彼女は本当に親切だった。)
- ⑤ This river is dangerous to swim in.  
(この川は泳ぐには危険だ。)

①や③の用法は中学内容で出てきたものです。

(1)の問題は「…その問題を解くなんて…」となっていますので、④の「判断の根拠」の用法と考えると、to solve the problem の語順を作り、He is smart の後に続けましょう。

## Note

(2) 彼はアフリカに行って、二度と戻らなかった。

He went to Africa, never to return.

不定詞・副詞的用法 never to + 動詞の原形  
「…して、二度と～しなかった」〈結果〉

「戻る」

②の「結果」の用法には次のような表現があります。

〔結果の不定詞を含む表現〕

- (a) ～, only to do … 「～したが、結局…であった」
- (b) ～, never to do … 「～して、二度と…しなかった」
- (c) grew up to be ～ 「成長して～になった」
- (d) lived to be ～ 「～歳まで生きた」

- (a) I hurried to the station, only to miss the train.  
 (私は駅まで急いだが、結局列車に乗り遅れてしまった。)
- (c) She grew up to be a famous scholar.  
 (彼女は大きくなって有名な学者になった。)
- (d) My grandfather lived to be ninety-nine years old.  
 (祖父は 90 歳まで生きた。)

(2)の問題では「…、二度と戻らなかった」となっていますので、(b)の表現を使って never to return を作りましょう。

## Note

(3) この本は読みやすい。

This book is easy to read.



be easy to + 動詞の原形  
 「～しやすい」

さらに副詞用法には〈S is + 形容詞 + to do〉の形で前の形容詞を修飾して「～するのが…」となる表現があります。

この形をとる形容詞には次のようなものがあります。

difficult (難しい)   impossible (不可能な)   hard (困難な)  
 tough (困難な)   easy (容易な)   dangerous (危険な)  
 safe (安全な)   pleasant (楽しい)   comfortable (心地よい)  
 interesting (おもしろい)   convenient (便利な)

(3)の問題では「…読みやすい」なので、is easy to read の語順を作ることになります。

## 2.

次の日本文に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(1) これは彼が使うためのコンピューターです。

( a / him / is / for / use / . / this / computer / to )

(2) あなたがそう言うのは親切なことです。

( so / is / of / . / to / it / you / kind / say )

(3) ミスを心配しないことが重要です。

( is / not / about / . / it / worry / mistakes /  
to / important )

[解答]

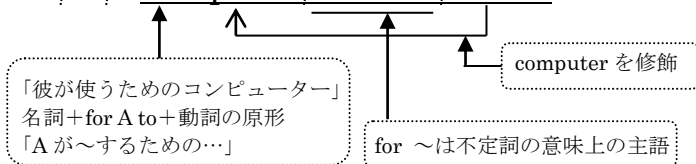
- (1) This is a computer for him to use.
- (2) It is kind of you to say so.
- (3) It is important not to worry about mistakes.

## Note

### 2. 不定詞の意味上の主語と否定形

(1) これは彼が使うためのコンピューターです。

This is a computer for him to use.



不定詞の意味上の主語は、中学内容では次のようになっています。

〈for A to do〉 意味上の主語は不定詞の前に **for A** を置く

そして、次のような例文で確認しました。

- ① It was difficult for her to speak Japanese. [名詞的用法]  
(彼女が日本語を話すのは難しいことでした。)

上の例文では名詞的用法の不定詞 to speak の意味上の主語を **for her** は

表しているのですが、意味上の主語は名詞的用法ではありません。

次のような例文で、形容詞的用法や副詞的用法でも意味上の主語が〈for A to do〉の形で入っている場合がありますので覚えておきましょう。

- ② Here is a book for you to read. [形容詞的用法]  
(あなたが読むべき本がここにある。)
- ③ Alex stood aside for Elyse to enter the room. [副詞的用法]  
(アレックスはエリースが部屋に入れるよう脇にどいた。)

②では a book to read (読むべき本) に for you が入って「あなたが読むべき本」になっています。③では to enter the room (部屋に入るために) ですが、誰が部屋に入るのかを示すために for Elyse を置いています。

(1)の問題では「…彼が使うためのコンピューター」ですので、a computer for him to use の語順にしましょう。

## Note

(2) あなたがそう言うのは親切なことです。

It is kind of you to say so.

It is + 人の性質を表す形容詞 + of A to + 動詞の原形  
「A が～するのは…です」

中学内容では、〈It ~ for A to + 動詞の原形…〉で「A が…するのは～です、A にとって…するのは～です」となり、for A は to + 動詞の原形の意味上の主語を表していると習いました。

しかし、It is の後に kind などの人や行為の性質を表す形容詞がくると、for ではなくて of を使って意味上の主語を表します。

It is + 人や行為の性質を表す形容詞 + **of A** to do

It is very nice of you to help me.

(私を助けてくれるなんてあなたはとてもやさしい。)

(2)の問題では「…親切な…」で人の性質を表していますので、kind of you to say の語順で不定詞の意味上の主語を表すことになります。

## Note

(3) ミスを心配しないことが重要です。

It is / important / not to worry about mistakes.

仮主語

後の不定詞  
を受ける。

「重要な」

not to + 動詞の原形  
「～しないこと」

「～を心配する」

不定詞の否定形は、次のようになります。

不定詞の否定形…not や never を to の直前に置く。

I told him not to make a noise.

(私は彼に音を立てないようにと言った。)

(3)の問題は「ミスを心配しないこと…」となっていますので、not to worry about mistakes の語順を作りましょう。



### 3.

次の日本語に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(1) 彼は病気だったと言われていた。

( said / have / sick / is / he / been / to )

(2) 彼女はよくなりつつあるようだった。

( be / seemed / well / . / getting / she / to )

(3) 彼は父親に叱られたくなかった。

( to / father / didn't / his / scolded / he / by / . /  
be / want )

[解答]

- (1) He was said to have been sick.
- (2) She seemed to be getting well.
- (3) He didn't want to be scolded by his father.

## Note

### 3. 不定詞の完了形・進行形・受動態

(1) 彼は病気だったと言われていた。

He was said to have been sick.

↑  
be said to have+過去分詞  
「～だったと言われている」

↑  
不定詞の完了形  
主節の動詞より前の時を表す

不定詞の to の後に完了形の形がきたものは、次のような働きがあります。

不定詞の完了形…〈to have+過去分詞〉。

- ① 述語動詞の示す時より以前の時を表す。
- ② 述語動詞の時点における完了・経験・継続を表す。

He claimed to have made discoveries in those regions.

(彼はその地域でいろいろ発見したと主張した。)

(1)の問題では「…病気だったと言われていた」となっていますので、「言われていた」のは過去ですが、「病気だった」のはそれよりも前の過去に

なります。よって、主節の動詞よりも前の時を表す完了形で不定詞を作りましょう。

## Note

(2) 彼女はよくなりつつあるようだった。

She seemed to be getting well.

↑  
seem to + 動詞の原形  
「～のように思われる」

↑  
不定詞の進行形  
to be ~ing

不定詞の進行形は、不定詞の〈to + 動詞の原形〉と進行形の〈be 動詞 + ~ing〉を組み合わせ、次のようになります。

不定詞の進行形… 〈to be doing〉

She seemed to be listening to me.

(彼女は私の言うことに耳を傾けているようだった。)

(2)の問題では「…よくなりつつある…」となっていますので、不定詞の進行形を使って **to be getting well** の語順にしましょう。

なお、この例文に出てきた〈seem to ~〉は不定詞を使った重要表現の一つでもありますので、これとよく似た〈appear to ~〉とあわせて覚えておきましょう。

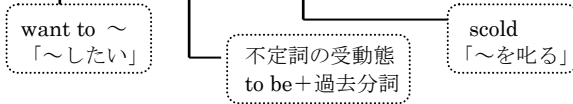
- ① **appear to ~** 「～のようだ、～のように見える」  
(外見などから客観的に)
- ② **seem to ~** 「～のように思われる、～に見える」  
(話し手の主観的判断)

- ① **He appears to be a rich man.**  
(彼は金持ちのように見える。)
- ② **He seemed to be quite happy.**  
(彼はまったくうれしそうだった。)

## Note

(3) 彼は父親に叱られたくなかった。

**He didn't want to be scolded by his father.**



不定詞の受動態は、不定詞の〈to+動詞の原形〉と受動態の〈be 動詞+過去分詞〉を組み合わせ、次のようになります。

不定詞の受動態… 〈to be+過去分詞〉

**She doesn't like to be left alone.**  
(彼女はひとり残されるのが好きではない。)

(3)の問題は「…叱られたくなかった」なので、**didn't want to be scolded**で述語の部分を作りましょう。

## 4.

次の日本語に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(1) 彼は数学を勉強するために早く起きた。

( early / study / got / . / order / he / to / math /  
up / in )

(2) そのレポートを一日で仕上げるのは難しいと  
私はわかった。

( to / found / day / hard / finish / report / I /  
a / the / it / in / . )

(3) 彼は明日、神戸に到着することになっている。

( arrive / tomorrow / is / Kobe / . / he / at / to )

(4) 実を言うと、私は彼にうそをつきました。

( I / the / him / tell / lie / , / told / . / a / to /  
truth )

[解答]

- (1) He got up early in order to study math.
- (2) I found it hard to finish the report in a day.
- (3) He is to arrive at Kobe tomorrow.
- (4) To tell the truth, I told him a lie.

Note

#### 4. 不定詞を含む重要表現

(1) 彼は数学を勉強するために早く起きた。

He /got up /early /in order to study math.

get up

「起きる」の過去形

「早く」

「～するために」

in order to + 動詞の原形

「目的」であることをはっきり伝えるために〈in order to ～〉「～するために」の表現があります。〈so as to ～〉も含めて覚えておきましょう。

① in order to ～ 「～するために」

② so as to ～ 「～するために」

① He left early in order to catch the train.

(彼はその電車に乗るために早く出発した。)

② She hurried out so as to be in time for class

(彼女は授業に間に合うように、急いで家を出た。)

(1)の問題は「…数学を勉強するために…」となっていますので、**in order to study math** を作りましょう。

## Note

(2) そのレポートを一日で仕上げるのは難しいと  
私はわかった。

I/found/it/hard/to finish the report/in a day.

仮目的語  
後の不定詞  
を受ける。

find it + 形容詞 + to + 動詞の原形  
「～することは…だとわかる」

「一日で」

仮の目的語 *it* とそれを受ける不定詞を使った表現には、次の重要なものがあります。

〈find it + 形容詞 + to ~〉「～すること…だとわかる」

文型としては **SVOC** の第 5 文型になっています。to 以下が意味上の目的語になっています。

(2)の問題では「…仕上げるのは難しいと…わかった」となっていますので、**found it hard to finish** の形を作りましょう。この *It* は仮の目的語で、後に続く **to finish the report in a day** 「そのレポートを一日で仕上げる」を受けています。to 以下が長いので、*it* を仮に目的語として置いて英文をすっきりした形にしています。

## Note

(3) 彼は明日、神戸に到着することになっている。

He is to arrive at Kobe tomorrow.

be to ~

「～することになっている」

「～に着く」

(be 動詞+to 不定詞) は「取り決めができています」が元々の意味ですが、そこから広がって次のような用法があります。

### [be+to 不定詞の用法]

- ① 義務・命令「～すべきだ、～せねばならない」  
主語の意志や希望ではなく、他から課せられた義務。  
親から子への指示や、掲示板での注意書きによく見られる。
- ② 予定「～する予定である」  
変更されそうにない予定や取り決め。
- ③ 可能「～できる」  
否定文や受動態で使われることが多い。
- ④ 意図「～するつもりである、～したいと思う」  
ふつう、if 節の中で(仮定法の were to は除いて)使われる。
- ⑤ 運命「～する運命である」  
自分では変えられない運命を表す。never, again, after all などの語句を含み、過去形の文で用いられることが多い。

- ① You are to wash the dishes before you play video game.  
(テレビゲームをする前にお皿を洗わないといけませんよ。)
- ② I am to leave next week.  
(私は来週出発することになっている。)
- ③ Not a cloud was to be seen.  
(雲ひとつ見られなかった。)



- ④ If you are to succeed, you must make every effort.  
 (成功したければ、あらゆる努力をしなければならない。)
- ⑤ She was never to see her family again.  
 (彼女は自分の家族に二度と会うことのない運命だった。)

(3)の問題は「…に到着することになっている」なので、is to arrive at の語順にしましょう。

## Note

(6) 実を言うと、私は彼にうそをつきました。

To tell the truth, I told him a lie.

「実を言うと」  
独立不定詞

tell A B  
「AにBを言う」

(6)の問題は〈to tell the truth〉「実を言うと」という決まった表現を使います。こうした文全体を修飾したりする決まりきった不定詞の表現を「独立不定詞」といいます。主な独立不定詞には次のようなものがありますので、ここで確認しておきましょう。

[主な独立不定詞]

to begin[start] with (まず最初に)	to be sure (確かに)
to be frank (with you) (率直に言って)	so to speak (いわば)
to be honest (正直に言うと)	
to tell (you) the truth (実を言うと)	
needless to say (言うまでもなく)	to be brief (手短かに言えば)
to say nothing of ~ = not to speak of ~	
= not to mention ~ (～は言うまでもなく)	
to say the least (of it) (控えめに言っても)	
not to say ~ (～とは言えないまでも)	

to be exact (正確に言う)    strange to say (不思議なことに)  
to make matters worse (さらに悪いことには)  
to make a long story short (手短かに言う)  
to do ~ justice (～を公平に評価すれば)

その他ここで取り上げられなかった主な表現をまとめると次のようになります。確認しておきましょう。(※「～」は動詞の原形を表しています。)

[不定詞を含む重要表現]

happen to ~	「たまたま(偶然)～する」
come[get] to ~	「～するようになる」
learn to ~	「～する(できる)ようになる」
manage to ~	「なんとか～する」
can afford to ~	「～する余裕がある」
prove to be ~	「～だとわかる」
turn out to be ~	「～だとわかる」
be likely to ~	「～しそうだ、たぶん～するだろう」
be sure to ~	「きっと[間違いなく] ~する」
be ready to ~	「進んで～する」
be willing to ~	「～する気がある」
be reluctant to ~	「～することに気が進まない」
be[feel] inclined to ~	「～する傾向がある」
be due to ~	「～するはずだ」
be eager to ~	「しきりに～したがる」
be anxious to ~	「～したくてたまらない」
have something to do with ...	「…と関係がある」
have nothing to do with ...	「…と関係がない」
All+主語+have to do is (to) ~	「～しさえすればよい」
do nothing but ~	「～ばかりしている」

